

**三陸の海を放射能から守る
岩手の会**

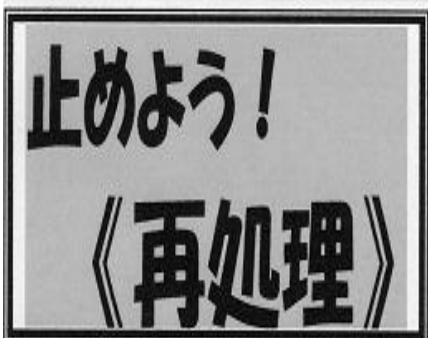
(略称) 三陸の海・岩手の会

郵便振替 02240-5-102650

ホームページ 《再処理/岩手の環境》

http://sanriku.my.coocan.jp/

《本紙の全バックナンバー掲載》



《天恵の海》

2014(平成26)年

11月10日

第147号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

**ストップ!
放射能汚染物焼却
憂慮される健康への悪影響
24市町村で3万8000トンを**

放射能汚染の 稲わら・牧草・ホダ木
焼却の青況

すでに

約7000トンを焼却



岩手玉山清掃事業所(玉山区寺林)

	焼却対象量	焼却量	保管量
完了	八幡平市	316	0
	花巻市	2456	0
	葛巻町	16	0
	紫波町	73	0
	矢巾町	188	0
実施中	一関市	19,780	1,626
	遠野市	(2,000)	477
	宮古市		206
	山田町		1,416
	岩泉町		104
	奥州市		6
	金ヶ崎町		32
検討中	盛岡市	163	
	岩手町	514	
	滝沢市		
	北上市	576	
	平泉町		
	釜石市		
	大船渡市		
	陸前高田市		
	大槌町		
	住田町		
	久慈市		
合計	38,646	6,995	

岩手県環境生活部資源循環推進課
(26年5月31日現在)

* 県は、風評被害を理由として市町村別焼却量と対象物の県合計のみ公表。太字の数字は、これまで公表された市町村広域組合の焼却処理計画書からの加筆。() は牧草

8000ベクレル超を国の仮設焼却炉で燃やす (一関)
一関・平泉地区では、狐禅寺に国事業で仮設焼却炉をつくり、8000ベクレル/kgを超える高いレベルの汚染稲わら328ト(一関・平泉分258ト、さらに周辺市町村から70ト)

を燃やすという方針が提示されました。この高レベル部分の終了のあと、地元広域組合が事業を引継ぎ、ホダ木一万四五〇トを焼却し、牧草4925トについては別途大東清掃センターで焼却するとしています。地元説明会では、一般ごみと混ぜて焼却す

六八〇トを焼却する (岩手町と玉山区)
八月二六日盛岡市は岩手町と玉山区内の放射能汚染牧草・稲わら・ホダ木六八〇トの焼却方針を市議会に提案しました。九月八日に「春を呼ぶ会」や「岩手の会」など七団体が盛岡

ごみ焼却炉による放射能汚染農林系副産物の焼却処分計画が、一関・平泉地区に続き、岩手・盛岡(玉山区)、奥州・金ヶ崎地区、北上地区の清掃センターで開始されようとしています。昨年一月に、当会はじめ県内八市民団体が、知事に「一般焼却炉では放射性物質の拡散を防げず健康被害をもたらす」として中止を要請しました。しかし、環境省は「バグフィルターで放射性セシウムを99・99%捕捉できる」として、焼却計画を強引に推進しています。バグフィルターをすり抜ける放射性微粒子は人間の体内に入り深刻な健康被害をもたらします。焼却の即刻中止を求めます。

るので排出する放射能灰は5600Bq/kgを上まわらないとしました。しかし、盛岡などの1000Bq/kg以下に比して極めて高い数字です。住民説明会では反対の声が相次ぎ、特に、狐禅寺地区では、「再度焼却炉を狐禅寺には建設しない」という市長と交わした「覚え書」があり、計画はストップ状態です。

市長と岩手町長、管理組合責任者へ焼却反対の要請書と質問書を提出し、担当者と話し合いを持ちました。

住民説明会が開催されましたが、疑問を感じた市民達は九月末に焼却炉管理の環境組合議会（岩手町議、盛岡市議会各3人）に陳情書を提出し、一〇月一〇日開催された組合議事を傍聴しました。しかし、陳情書は不採択でした。一四日には盛岡市議会において「汚染牧草の件」について、陳情書提出市民による意見陳述が予定されています。

試験焼却を開始

（奥州市・金ヶ崎町）
試験焼却を九月二三日（二六日）に行うため、事前説明会が開催されました。住民の合意が得られれば本焼却を行うとしています。

五七六トを焼却したい

（北上市）

北上市は九月二六日市内二〇箇所に分散保管している牧草やホダ木など五七六トの汚染物を来年三月から本格焼却処理すると発表しました。

イギリス環境医学会で ごみ焼却炉の 健康に対する影響を警告

イギリスの環境医学会の論文にごみ焼却炉の危険性が述べられています。

以下・抜粋

《小見出し》は編集部

《排気に毒性金属》

◆例外なくゴミ焼却炉排気には毒性金属が含まれており、飛灰には、毒性金属が高濃度に存在する。

《体内に入った放射能》

◆呼吸により体内に入った放射性物質はα線及びβ線を放射することになる。体外から放射されるα線β線の危険性は低いが、体内からの放射は強力な破壊力を生ずる。

《「PM2.5」とは》

◆微粒子は空気中の微小な粒子で、サイズによつ

ジェレミー・トンソン博士
オナー・アンソニー博士
「第4次報告書」
第2版
2008年6月

この報告書はブログ「風の谷」に掲載中。
http://blog.goo.ne.jp/flyhigh_2012/e/fdf5d250fb06da26bdd09f0943dc339f

ある。

《微粒子が体内に》

◆小さな微粒子は鼻や細気管支で取り除かれず、その小ささ故に呼吸により肺の奥深くに入ると、そのまま血流に入り込み長時間血中に存在し続ける。その後微粒子は細胞膜を通過して細胞核へ侵入し、DNAに作用する。

《軽い微粒子が沢山》

◆最小サイズの微粒子、特に超微粒子（PM0.1）はそのサイズの小ささと相対的な表面積の広さ故高い化学反応性を持っている。最小サイズ微粒子がより危険なのは、単位重量当たり何千倍も

の数の微粒子が存在することである。ゴミ焼却炉内では重金属、ダイオキシン、その他化学物質が微粒子表面に付着して、毒性を増すことになる。人体には肺奥深くの汚れを効果的に取り除くメカニズムが備わっていない。

《ゴミ焼却炉は微粒子発生器》

◆ゴミ焼却炉は微粒子の効果的発生源であり、死亡率に対して大きな影響のある微小サイズの微粒子を主として生産する。ゴミ焼却炉には致死的な潜在能力が備わっているのは確かである。

岩見医師が学会で発表 焼却炉の風下で 空間線量率が上昇

宮古市の開業医岩見徳文医師（医学博士）は、

昨春秋以来放射性物質に汚染された牧草等の焼却処理に疑問を持ち、宮古市のごみ焼却炉の焼却について調査研究をされてきました。その集大成としてこの九月に広島で行われた第二五回廃棄物資源循環学

会研究発表会において、報告を行いました。

岩見医師は「焼却炉風下で空間線量率の異常上昇が観察され、排ガス中放射性物質の飛来が原因と考えられる。超微小粒子および気体状態で排ガス中に存在する放射性セシウムの測定法を確立することが本

学会の急務である」とし「九九・九%除去仮説に対して多くの反証が存在し、焼却物中放射性セシウムは二割前後がバグフィルターを通り抜けると考えられる。現行の放射性セシウム測定法は科学性がない」と報告しました。

岩見氏ら研究メンバーは学会報告に先立って、宮古市内七一箇所の測定点で空間線量率を測定し、焼却炉の排気が、卓越する西風によって東に運ばれ、燃焼に比例して増減していると報告しました。

岩見氏のレポートは次のウェブから見られます。

<http://samriku.my.coocan.jp/06-4.pdf>
<http://samriku.my.coocan.jp/140916iwami.pdf>

第4回放射能問題市民交流会

日時 11月23日（日）

10:00 ~ 16:00

盛岡市：ベルフ青山会議室

レポート：1人10分

A4版レジメ（60部）

11月14日締め切り

◎当日参加も大歓迎

連絡先 019-653-9130（阿部）